

国際連携 WG の活動

平成 26 年 7 月 1 日

国際連携 WG 天野

[目的]

自動走行システムを実用化し普及させることにより、世界一安全な道路交通の実現を目指すとともに、高齢者移動の活性化や渋滞緩和に貢献するために、グローバルに共有する理念の形成、構成技術の開発、社会受容性の醸成のための国際連携でリーダーシップを発揮する。

[活動の進め方]

- 自動走行システム推進委員会の研究が国際連携の下で進められ、その成果が国際的に認知されるよう、研究開発各テーマの実施者と一体となって取り組む。
- 既存の国際連携の枠組みを活かし、各参加組織の活動を産官学が一体となって支援する。に参加する組織の活動を支援する。上記国際連携活動相互の情報共有を密にして協調する。
- 欧州や米国における活動にも参画して積極的に情報発信を行い、日本にも定常的な国際的議論の場を設けることにより、国際的な合意形成に主導的な役割を担う。
- 既存の研究機関を活用して、研究開発のための国際的に開かれた拠点を作り、研究開発の早い段階から海外の関係者と協働する環境を整備する。

既存の国際的議論の枠組み

- － World Forum for Harmonization of Vehicle Regulations (WP29) ,UNECE
- － EU-US-JP Trilateral Automation in Road Transportation Working Group
- － ISO TC204 WG14 “Vehicle/roadway warning and control systems”
- － International Telecommunication Union, Study Group(s)
- － Transportation Research Board (TRB): Workshop on Road Vehicle Automation
- － European Commission: Support Action for Vehicle and Road Automation network

[実施項目]**① 国際的に開かれた研究開発環境の整備****(情報発信)**

- 研究開発の計画、技術開発の方向性、中間成果、実証評価の各段階に応じて、各テーマの実施者がワンボイス化した発信を行う。
- 計画的かつ効果的に情報発信のための登壇者間の情報交換を支援する。
- 国際会議において SIP の成果の発信や重要テーマの議論をリードするためのセッションを企画する。
- 国際会議などを通じて入手した情報を集約しタイムリーに共有する。

平成 26 年度の例

6 月 16-19 日	10 th ITS European Congress、Helsinki
7 月 15-17 日	Workshop on Road Vehicle Automation、San Francisco
9 月 7-11 日	21 th ITS World Congress、Detroit
1 月 11-15 日	TRB 94 th Annual Meeting、Washington D.C.

(国内における国際会議開催)

- 自動走行システムに関する国際会議を国内で毎年開催する。
- 研究開発計画で取り上げている主要テーマごとにセッションを企画し、国際的に各分野をリードする研究者や行政官による議論の場を提供する。
- 研究開発の中間成果のデモンストレーションや研究開発実施主体の研究施設視察など現地・現物体験の機会を提供する。
- 産官学の関連国際組織のネットワークを活用して参加者を募り、また、各組織の会合を併催することにより参加を促進する。

(国際的に開かれた研究拠点の設定)

- 日本での研究開発成果を実機で提示するデモンストレーションの実施から始め、研究開発の進捗に応じて具体的対象を特定する。
- 既存の研究施設を活用する。また、特定の研究施設で実施することに限定せず、具体的な研究対象に応じて最も効果的な場の活用を検討する。
- 実現すべきサービスや機能に関する検討を共同で行う場の設定に主眼を置く。
- 共同利用可能なプラットフォームを用意し、核となるモジュールやソフトウェアを持ち寄ることによって実施できるよう環境整備を行う。

② 自動走行システムの社会受容性の醸成

- 既に実用化されている自律型および協調型の運転支援システムの技術や効果についての理解活動を展開する。さまざまなイベントやその報道の機会を活用する。
- 自動走行システムの技術内容および事故削減効果の定量的提示を行い、自動走行システムがもたらす効用と潜在リスクのオープンな議論の材料を提供する。

③ 国際パッケージ輸出体制の構築

- 次世代都市交通システム WG の検討進捗に合わせて、具体的活動の内容を検討する。

以上